

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	○学校教育目標である「感謝・絆・全力～小中一貫教育と各種交流活動によって自主・自立に向かう児童生徒の育成～」に向けて、教職員は啓発や働きかけを行ったり、児童生徒は学校行事や地域行事に取り組んだりする姿が見られた。 ○学力向上や地域連携に向けて、北山校授業モデルづくりの研修を進めながらタブレットの活用や個別化への対応を行ったり、学校行事と地域行事を計画的に組み込み北山校の魅力を体感できる方策を仕組んだりしていくことが求められている。 ○心の教育に向けて、「生活実態調査」アンケート、「いじめ・体罰」アンケートにて、児童生徒の困り感、友達関係の把握と指導と指導し、9年間の学びを通して、児童生徒自らが夢や希望を膨らませたりできる環境を継続して整えていく。 ○健康・体づくりに向けて、「早寝、早起き、朝ごはん」やバランスの良い食生活の推進、外遊びや部活動、社会体育の奨励を教職員が一体となって全校の児童生徒に対して継続的、積極的に働きかけていく。
------------------	---

2 学校教育目標	○感謝・絆・全力～小中一貫教育と各種交流活動によって自主・自立に向かう児童生徒の育成～
----------	---

3 本年度の重点目標	(1)感謝…豊かな心「自他の生命尊重」「他人を思いやる心」「自己肯定感」「道徳的心情」「人権感覚」「ボランティア活動」等の向上、育成 (2)絆…絆づくり「人間関係力」「ふるさとへの愛と誇り」「喜び合う学級づくり」「遠隔地交流」「地域連携」等の充実、推進 (3)全力…学力向上「基礎・基本」「生活習慣」「北山校授業モデル」「北山校思考スキル」「家庭学習」「言の葉タイム」「友愛」「家勉強ばらぼう週間」等の定着、推進
------------	--

先生方へ
・学校評議員様の評価、意見や提言の集約を完了しました。先生方に今年度の学校評価を公開をします。
・最終評価における達成度（評価）、実施結果について確認をお願いします。
・総合評価、次年度への提言について確認をお願いします。

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目										主な担当者	
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○全国、県学習状況調査に向けた学力向上対策の充実、学習内容の定着に向けた分かりやすい授業実践	○教職員の学校評価アンケートの「学習課題や学習過程の工夫をした授業づくりをし、主体的に学ぶ姿を目指している。」という項目で、肯定的な回答の割合が90%以上になるようにする。	A	・学力向上対策に係る研修会を実施して教職員自身が資質向上に努めたり、学習状況調査を見据えた問題を学習活動の中に取り入れて児童生徒に主体性を育ませたりしていく。	B	・アンケート結果では、肯定的な回答の割合が82.4%となり中間評価より下がった。「よく分からない」との回答の割合が17.6%あることから、教職員への浸透をより図ったり、今年度の全国、県学習状況調査の振り返りを生かして指導を続けていく。	B	・北山校授業モデルの基本的な考え方を保護者とも共有していくことが大切です。	・学力向上推進コーディネーター		
	○気づき、考え、表現する児童生徒の育成に向けた授業づくり	○話し合う場面を中心に自分の考えを述べたり友達のを聞いたりすることを、肯定的にとらえた児童生徒の割合を80%以上とする。	A	・「北山校授業モデル」を基に、「考える」「深める」場面で、主体的、対話的活動を仕組み、児童生徒が自ら学ぶ授業づくりの中で、論理的思考力の高まりを目指す。	A	・「授業中に自分の考えを述べたり友達の考えを聞いたりする活動」に対して、アンケート結果では、児童生徒は89.8%、教職員は94.1%が肯定的な回答をしている。今後も積極的な取組を進めたい。	A	・「授業中に自分の考えを述べたり、友達の考えを聞いたりする活動」で、肯定的な回答をした児童生徒は90%以上であった。伝え合う場面を設けた授業づくりを意識したり指導方法を工夫したりして授業実践に取り組むことができたと言える。	A	・富士町の人、事、物を題材として授業に活かしていくと、気づき、考え、表現するにつながっていくと思います。	・校内研究担当
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校評価アンケートの生命尊重、思いやり、社会性等の項目にて、肯定的にとらえた児童生徒の割合を80%以上とする。	B	・道徳の授業公開により学校の取り組みを伝えたり、家庭や地域との連携を通して相互理解を図ったりして、学校と地域が一体となって児童生徒を見守る。	A	・「ふれあい道徳」の授業公開、学年や学級便りによる啓発等で、児童生徒への指導や対応は細やかに行うことができた。今後、自らの実体験に置き換えて考えたり行動につなげたりする意識を高めていくような指導を行っていきたい。	A	・生活実態調査を実施して、児童生徒の悩みや相談を把握したり、いじめ事案に対応したりした結果、教職員の肯定的な回答は85%以上である。また、日々、連絡帳によるやり取り、細やかな電話対応等で家庭との連携にも努めている。	A	・自他の命、他者への思いやり等については、重点的に指導をお願いしたいです。	・道徳教育推進教師
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校評価アンケートの児童生徒のいじめに関する項目、教職員の組織的な対応の項目にて、肯定的にとらえた教職員の割合を90%以上とする。	A	・毎月、いじめのいのちを考える日として人権集会を行い啓発を図ったり、いじめアンケートを実施して一人一人の心情に寄り添ったりして、日常の細かな観察と併せ、早期発見、早期対応を行う。	A	・アンケート結果から、児童生徒のいじめに関する項目は96.6%、教職員の組織的な対応の項目は94.1%といずれも肯定的な回答が多かった。引き続き、教職員全体で早期発見、早期対応を行っていく。	A	・アンケート結果から、児童生徒のいじめに関する項目は93.2%、教職員の組織的な対応の項目は94.1%であった。教職員全体で早期発見、早期対応を実施した成果と言える。	A	・早期発見、早期対応のために、学校側がどのような対応をしているのか具体的な方策を周知していただきたいと思います。	・生活指導、生徒指導主事
	●○児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●○学校評価アンケートの「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」「将来の夢や目標をもっている」の項目で肯定的に回答した児童生徒の割合を80%以上とする。	B	・児童生徒が、学校行事、体験活動等に見通しをもって取り組む単元を仕組み、自らの生き方、考え方を見据えキャリアパスポートに記して学びを振り返ることを促す。	A	・アンケート結果から「大きくなって…、夢や希望を…」の項目で、肯定的な回答した児童生徒は81.3%であった。今後、学校行事等に見通しをもたせたり、キャリアパスポートを活用させたりして支援を継続していく。	A	・アンケート結果から「大きくなって…、夢や希望を…」の項目で、肯定的な回答した児童生徒は82.8%であった。年間を通しての継続的な進路指導、教育相談、キャリアパスポートによる振り返り等によって成果が表れてきている。	A	・将来の夢に関しては、9月、1月のアンケートとともに、80%以上で推移している。今後も継続的に指導をお願いしたいです。	・キャリア教育担当
	○基本的な生活習慣の確立に向けた児童生徒の育成	○学校評価アンケートの挨拶、返事、正しい言葉遣いの項目で肯定的に回答した児童生徒の割合を80%以上とする。	A	・毎月、全校に対して生活集会で話をしたり、個別に生活習慣についてのフィードバックを行うたりして、学校や学級で児童生徒の生活を適切に評価する。	A	・アンケートの「挨拶、返事、正しい言葉遣い」の項目で、肯定的に回答した児童生徒は90%以上であった。引き続き、毎月、生活集会を実施し、挨拶に重点をおいて声をかけたり適切に評価したりしていく。	A	・アンケートの「挨拶、返事、正しい言葉遣い」の項目で、肯定的に回答した児童生徒は90%以上であった。生活集会をはじめ、月1回の子ども支援会議で職員間で児童生徒情報を共有して教育活動にあたった結果と言える。	A	・児童生徒が自ら積極的に挨拶ができるように、引き続き指導をお願いしたいです。	・生活指導担当
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成の検討及び実践	○学校評価アンケートの早寝、早起き、朝ごはん、うがい、手洗いの項目や学校給食に係る項目で、肯定的に回答した児童生徒の割合を80%以上とする。	A	・毎日の健康観察の充実、遅刻や欠席の児童生徒への家庭連絡、保健だよりによる啓発、給食の残食率調査による指導等、細やかな指導を継続して行う。	B	・早寝、早起き、朝ごはん、うがい、手洗いの項目や学校給食に係る項目で、肯定的に回答した児童生徒の割合はいずれも90%以上であった。今後も保健便り、校内放送等を活用し学級朝顔や長期欠席の未然防止に努めていきたい。	B	・早寝、早起き、朝ごはん、うがい、手洗いの項目や学校給食に係る項目で、肯定的に回答した児童生徒、保護者の割合は総合すると80%以上であった。児童生徒への具体的な指導、保護者への積極的な啓発等、課題を明確にして今後も取組を推進していきたい。	B	・社会全体で子供の教育について考える必要があると思います。	・保健指導担当
	○自らの健康的な体づくりの充実を目指す児童生徒の育成	○学校評価アンケートの運動やスポーツ、遊び、部活動の項目で肯定的に回答した児童生徒の割合を80%以上とする。	A	・外遊びや日常的な運動を奨励したり、部活動の時間を充実させたりする。また、体育で体づくり運動の内容を取り入れ、体を動かす楽しさや心地よさに触れさせる。	A	・「体力づくり」「基本的食生活」で肯定的な回答をした児童生徒は89.8%であった。体育大会等の学校行事や体育の授業、休み時間の過ごし方に全職員が積極的に関与したり、夏休みや冬休みを含めて健康に留意することを継続的に指導していきたい。	A	・体力作り等で、肯定的な回答をした児童生徒は88%であった。個人の能力や発達段階に応じて継続的に行った結果と言える。実際、球技、水泳等、多くの種目で身体能力の向上が顕著であった。	A	・子供たちに外遊びを奨励するためのどのような対策をとられているのか周知していくとよいでしょう。	・保健体育担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限、月45時間、年360時間を遵守した教職員の割合を90%以上とする。	B	・週行事の定例化、会議時間の設定等、見通しをもった校務の運営や処理を実施したり、教育反省、校務可視化により、業務精選や均等化に努めている。	A	・1人1夜の校務分掌の分担により校務や業務の見える化、スリム化に積極的に取り組んでいる最中である。学校評価、教育反省を生かし、教職員の思いや考えを学校運営に積極的に取り入れより良い職場環境を目指している。	A	・職員会議等は、1時間以内に終了することを目標にスリム化を図り概ね目標を達成した。ほとんどの教職員が定時退勤を意識して勤務に励んでいた。その結果、月45時間を遵守した教職員は、88%となった。	A	・スリム化はとても大切ですが、職員会議等で先生方の意見をいやすい雰囲気づくりは大切にしていきたいです。	・管理職
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に係る児童理解と支援体制の構築	○特別支援教育に係る専門性の向上、支援体制の充実について、肯定的にとらえた教職員の割合を90%以上とする。	A	・特別支援教育に係る研修会を定期的に実施したり、子ども支援会議、サポート部会等で、情報共有を図ったりして、個に応じて児童生徒の指導にあたる。	A	・特別支援教育において、校内でのケース会議や校内委員会、外部の専門機関との連携で、具体的な組織的な対応を行っていることと回答した教員は90%以上であった。研修等にて、最新の情報を提供し高い意識を維持していきたい。	A	・子ども支援会議、校内委員会を通じて、児童生徒の情報共有を図ったり、適切な対応を行ったりして結果、特別支援教育の在り方に肯定的な回答をした教職員は88%と高い水準であった。専門機関との連携、継続的な支援を今後も推進していきたいと考えている。	A	・学校だけでなく、主任児童委員、市の教育委員会等、関係機関と連携、協力してき子供に対応していくことが欠かせないと思います。	・特別支援教育担当

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○地域に開かれた学校	○地域連携活動を通して、ふるさと北山への愛と誇りと持つ児童生徒の育成	○学校評価アンケートの交流学習、地域行事の項目で肯定的に回答した児童生徒の割合を80%以上とする。	・北山ふれあい企画である「サマーキャンプ」「冬の北山まつり」等の開催に向けて、教職員、児童生徒も当事者として、実際に運営や役割を担う。	B	・アンケート結果から、児童生徒、教職員の肯定的な回答は80%以上であったが、保護者の肯定的な回答は60%代であった。今後、学校行事や体験活動等において学校の説明責任を果たしながら保護者との連携、理解の促進を図っていく。	B	・アンケート結果から、教職員は94.1%、児童生徒は91.4%、保護者は84.2%が肯定的な回答であった。成果指標を上回っているが、教職員と保護者の間に約10%開きがあるので、今後も学校の説明責任を果たし保護者との連携を図っていく。	B	・今後も北山への愛と誇りを持つようにご指導をお願いします。 ・行事や活動において、地域の方と企画、立案段階から検討を重ねられると思います	・育友会、交流学習担当
○小中一貫教育	○小中が連携した取り組みによる9年間を見通した教育課程の編成の充実	○学校評価アンケートの小中一貫教育の良さ、小中一貫教育の継続した指導の項目で肯定的に回答した保護者、教職員の割合を90%以上とする。	・小中一貫教育のねらいやよさを確認できるように、児童生徒、教職員、育友会が一体となって学校行事、体験活動等に取り組む。	B	・アンケート結果から、保護者の肯定的な回答の割合が83.3%、教職員の肯定的な回答の割合が94.1%という結果であった。今後も少人数の学級集団の良さを生かしたり保護者との緊密な情報交換を行ったりして北山校の魅力を外に発信していきたい。	A	・アンケート結果から、教職員は94.1%、児童生徒は89.6%、保護者は93.7%が肯定的な回答で、成果指標を上回ることができた。小中一貫校の良さが生かされていると思われる。今後も北山校の魅力を外に発信していきたい。	A	・児童生徒の人数が減少していくなか、教室配置、学年配置等も柔軟な対応が必要になってくると思います。	・教務主任

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	●学力の向上について、全国、県学力・学習状況調査の結果は、5、6年、8、9年とも県平均以上ない県同水準であった。北山校授業モデルを活かした北山思考スキルによって、気づき、考え、表現する学習活動の充実の結果と考える。 ●心の教育について、教職員による生活実態調査、児童生徒会によるいじめ、いのちを考える取組等、細やかな対応や指導、年間を通じての自主的な活動によって、児童生徒の安心感や満足感が高い。教育相談週間等の充実で、相談体制をさらに強化していきたいと考える。 ●健康・体力づくりについて、あいさつ運動、早寝・早起き・朝ごはんの習慣、保健便りによる啓発等、継続的に児童生徒に働きかけを行っていた。今後、全校的に、運動やスポーツへの取組を具体化して、体力づくりに励むことが課題である。 ●地域に開かれた学校について、育友会活動を中心に児童生徒や保護者の出席率は、ほぼ100%と非常に高い水準である。しかし、意識面では教職員と保護者では隔りがある。保護者の学校への期待感を把握して、学校運営に活かしていくことが求められていると言える。
----------------	---